

選評

第29回を迎えた新聞広告賞は、広告主企画部門に371作品、新聞社企画部門に36作品の応募をいただきました。ご関係の皆さまに深く感謝申し上げます。

応募作品の審査・選考は、規定により広告委員会が選考委員会となり、6月から7月にかけて3次にわたって行いました。その結果、7月17日の選考委員会で広告主企画部門5作品、新聞社企画部門5作品の本賞のほか、広告主企画部門優秀賞11作品、新聞社企画部門奨励賞7作品を選定し、9月2日の理事会で正式に授賞を決定いたしました。

新聞広告賞は、2006年から新聞社以外の外部審査委員を招き、評価プロセスの客観性、透明性、審査の公平性を担保してきました。今年も選考委員会に先立って開催された新聞広告賞選考分科会に、昨年同様、アートディレクターで多摩美術大学教授の中島祥文氏とコピーライターの眞木準氏の2人を招聘する予定でしたが、6月22日に眞木氏が急逝されたことから、今回は中島氏のみを選考に加わっていただきました。

選考分科会は、広告主企画部門、新聞社企画部門とも投票と議論により授賞作品を決定しました。いずれの入賞作品も新しい新聞広告の可能性を開拓したすばらしいものであり、優劣の差はほとんどありませんでした。そのため、広告主企画部門優秀賞、新聞社企画部門奨励賞は規定を上回る授賞件数となりました。

今年は、両部門とも、環境や食、地域貢献など現代の世相を反映したテーマを扱った作品が多く集まりました。広告主企画部門では、単なる商品売るための広告ではなく、企業理念や企業姿勢を読者に伝えブランド力向上につなげた企業広告、地域との結び付きや地域貢献をメインにしたCSR広告が目を引きました。その中でも、今年は明るくポジティブな作品が多く、キャラクターを使用するなど豊かなクリエイティブ表現で読者を楽しませてくれた作品もありました。また、新聞社企画部門では、テレビと新聞を巧みに連動させ読者を新聞広告に誘導させた作品、ラッピング広告をはじめ新聞の媒体特性を最大限に生かした作品、地域貢献につなげるなど新聞社の総合力を発揮した作品などが目に付きました。

今回入賞した作品は、いずれもバラエティーに富んだ作品であり、新聞広告の新しい利用法や新聞広告の力を感じさせるものです。

ご応募をいただきました広告主の皆さまと関係各位にあらためて感謝申し上げますとともに、今回の受賞が、各社の社業および新聞広告の発展の一助となれば望外の幸せです。今後とも新聞広告に一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2009年10月20日

第29回新聞広告賞 選考委員会
社団法人日本新聞協会 広告委員会
委員長 鈴 置 修一郎

審査講評



なかしま しょうぶん
中島 祥文氏

ウエーブ クリエーション代表
アートディレクター
多摩美術大学美術学部
グラフィックデザイン学科教授

1944 年愛知県生まれ。多摩美術大学卒。J.W. トンプソンなどを経て、81 年ウエーブクリエーションを設立。東京 ADC 会員 (02 ～ 04 年審査委員長)、朝日新聞社広告賞審査員 (92 年～)、日本経済新聞社広告賞審査員 (97 年～)、読売新聞社広告賞審査員 (96 ～ 99 年) を務める。東京 ADC 会員最高賞、日本宣伝賞山名賞ほか多数受賞。著書に『考えるデザイン』(09 年・美術出版社)。

新聞の大きなメリットは、「一覧できる良さ」にある。ニュースとは別に、予測しない記事やその人にとって価値のある情報に出会う。これに対して、ネットで得られる情報は、あらかじめ欲しいものを選別される。ここに新聞の揺るぎない優位性があり、これからの社会にとって不可欠な存在理由がある。

新聞広告も実は同じだ。読者は、その日、その広告が掲載されることを予測していない。だからこそ広範囲に読者をつかまえられる。情報の質と量の豊かさを前提にすれば、今後、それらへの意識が深まることで、価値は高まっていくと考えるべきだろう。ネット広告と大きく違うこれらの部分が、新聞広告の今後にも果たすべき役割だ。

今年、広告主企画部門では、いずれも企業の責任に起点をおいた発信が高く評価された。シャープのソーラー発電への実績や、新日本石油の「環境・防災・エネルギー」への姿勢、本田技研工業のエコカーを軸にした思想、愛媛トヨタ自動車の地域に根ざす企業の在り方、そしてパナソニックの止むことのない製品への哲学など、本賞 5 作品、優秀賞 11 作品が選出された。

新聞社企画部門では、読売新聞「広告に、事件を。」が、群を抜いて表現領域を広げ、企画の自由性に限界のないことを認識させた。北海道新聞の「独立宣言」による活力への意欲、新潟日報の朱鷺の放鳥による共生への啓発、中国新聞の「緑の伝言プロジェクト」、河北新報の漫画に親しむ「みやぎ漫画の力」など、今年もまた地方の熱気を伝え、本賞 5 作品、奨励賞 7 作品が選出された。

セグメントしない不特定多数の読者への表出は、新聞広告が許容力豊かなメディアであることを改めて感じさせた。

応募状況・選考経過

応募・推薦状況

2008年6月1日から09年5月31日までに、新聞協会会員新聞に掲載された広告活動を対象に、広告主企業、広告会社、新聞社に応募・推薦を呼びかけた結果、5月13日から6月3日までの受付

期間に、広告主企画部門に371作品（単独広告主368作品、複数広告主3作品）、新聞社企画部門に36作品（単独企画35作品、共同企画1作品）の応募・推薦があった。

選考経過

新聞協会会長の任命する委員をもって新聞広告賞選考委員会（＝広告委員会）が組織され、下記のとおり応募・推薦作品の審査・選考を行った。

1. 新聞広告賞予備選考会＝6月13日～19日

選考委員会は、広告委員会の下部組織である広告開発部に予備選考を委嘱した。新聞広告賞予備選考会は、広告主企画部門、新聞社企画部門の両部門に応募・推薦のあった全広告活動を対象に審査した。

(1) 第1次予備選考会＝6月13、15、16日

広告主企画部門の全作品の中から、広告開発部の各委員がそれぞれ30作品を推薦し、推薦の多かった上位111作品を第2次予備選考会の審査対象とすることにした。また、新聞社企画部門の全作品を内覧した。

(2) 第2次予備選考会＝6月18、19日

選考に先立って座長に時川裕之・広告開発部会副部長（愛媛）を互選、審査・選考にあたっては、新聞広告賞制定の趣旨から、企画性、広告活動の成果など新聞広告活動の全過程を対象に評価することを確認した。

18日は新聞社企画部門の選考を行い、選考基準の各項目を念頭において審査することを確認したのち、展示された広告紙面と「応募申込書」の記載事項に基づいて審議・投票した。その結果、15作品を選考分科会に上申することを決めた。

19日は、広告主企画部門の第1次予備選考会を通過した作品を対象に選考を行った。展示された広告紙面と応募申込書の記載事項に基づいて審議・投票を重ねた結果、34作品を選考分科会に上申することを決めた。

2. 新聞広告賞選考分科会＝7月16日

広告委員会常任委員およびアートディレクターの中島祥文氏（ウエーブ クリエーション代表／多摩美術大学教授）で構成された選考分科会で、新聞広告賞予備選考会から上申された候補作品を審査・選考した。

選考に先立ち座長に今井秀和・広告委員会副委員長（日経）を互選、白石正人・広告開発部会長（北海道）と時川・予備選考会座長が、応募総数・応募作品の傾向、予備選考会経過、上申作品の推薦理由を報告した。

新聞社企画部門については、予備選考会から上申された15作品を閲覧のうえ、30点満点で採点した。その際、自社作品には投票権を認めなかった。投票結果をもとに審議した結果、5社5作品を新聞広告賞授賞候補、9社7作品を奨励賞授賞候補とした。広告主企画部門については、34作品を対象に作品閲覧のうえ連記式の投票により入賞16作品を選び、このうち投票において上位であった5社5作品を新聞広告賞授賞候補、そのほか12社11作品を優秀賞授賞候補に決定した。以上、計28作品を新聞広告賞選考委員会に上申することにした。

3. 新聞広告賞選考委員会＝7月17日

7月度広告委員会が最終の選考委員会となり、今井・選考分科会座長が選考経過について報告を行った。広告委員会は選考分科会からの上申を最終選考結果とし、9月度理事会の承認を得ることとした。

4. 理事会＝9月2日

新聞協会理事会は、新聞広告賞選考委員会からの選考結果と選考経過に関する上申を承認した。

第29回新聞広告賞選考委員会名簿

朝日新聞東京本社
広告局長
鈴 置 修一郎

毎日新聞東京本社
広告局長
西 村 修 一

読売新聞東京本社
執行役員広告局長
大 橋 善 光

日本経済新聞社
クロスメディア第二営業局長
今 井 秀 和

東京新聞
広告局長
井 戸 義 郎

産経新聞東京本社
営業局長
松 本 肇

ジャパンタイムズ
広告局長
岡 田 恵 介

報知新聞社
取締役広告局長
戸 島 雅 彦

日刊工業新聞社
取締役営業担当本社業務局長
井 水 治 博

日刊スポーツ新聞社
広告局長
塩 田 浩 一

日本工業新聞新社
営業事業本部次長兼営業部長
桑 原 潔

スポーツニッポン新聞社
広告局長
矢 野 康 彦

日本農業新聞
審議役広報局長
小 島 幸 男

朝日新聞大阪本社
広告局長
魚 谷 明

毎日新聞大阪本社
広告局長
園 崎 明 夫

読売新聞大阪本社
執行役員広告局長
森 本 潤

日本経済新聞大阪本社
クロスメディア大阪営業局長
森 川 徹

産経新聞大阪本社
営業局長
田 中 康 雄

北海道新聞社
取締役広告局長
高 橋 雅 博

十勝毎日新聞社
執行役員広告局長
丸 山 芳 明

東奥日報社
常務取締役広告局長
塩 野 勝 幸

デーリー東北新聞社
取締役広告局長
松 本 康 広

岩手日報社
常務取締役広告局長
小野寺 勲

河北新報社
営業本部副本部長
中 山 晴 久

秋田魁新報社
取締役営業局長
熊 谷 清 隆

山形新聞社
広告局長
本 田 孝 三

福島民報社
取締役広告局長
二 瓶 盛 一

福島民友新聞社
常務取締役広告局長
菅 野 建 二

茨城新聞社
取締役営業局長
関 谷 智

下野新聞社
広告局長兼業務推進本部長
飛 田 博 通

上毛新聞社
役員待遇広告局長
樋 田 康 行

埼玉新聞社
クロスメディア営業局長
本 田 秋 満

神奈川新聞社
営業局長
並 木 裕 之

千葉日報社
取締役業務・メディア局長
川 名 親

山梨日日新聞社
広告局長
津 野 治 彦

静岡新聞社
営業局長
村 田 潔 春

信濃毎日新聞社
取締役広告局長
古 川 哲 夫

中日新聞社
広告局長
安 藤 靖 彦

岐阜新聞社
広告局長
山 本 耕

新潟日報社
取締役広告事業・デジタル
営業担当広告事業本部長
栗 山 和 広

北日本新聞社
取締役営業担当営業局長
本 田 裕

北國新聞社
広告局長
砂 塚 隆 広

福井新聞社
広告局長
山 本 道 隆

伊勢新聞社
代表取締役社長兼営業局長
小 林 千 三

京都新聞社
京都新聞COM広告局長
宮 脇 一 徳

神戸新聞社
広告局長
井 田 眞 治

奈良新聞社
取締役東京支社長
上 田 達 雄

山陽新聞社
取締役広告局長
野 崎 誠 二

中国新聞社
執行役員広告局長
増 谷 寛

山陰中央新報社
広告局長
石 原 安 夫

山口新聞社
取締役山口新聞本部副本部長
宮 本 邦 彦

徳島新聞社
広告局長
佐 野 和 史

四国新聞社
執行役員広告局長
中 村 卓 朗

愛媛新聞社
広告局長
安 藤 敏 朗

高知新聞社
広告局長
岡 村 亨

西日本新聞社
執行役員広告局長
行 武 亨

佐賀新聞社
執行役員営業局長
水 田 政 光

長崎新聞社
取締役営業局長
松 江 健次郎

熊本日日新聞社
広告局長
下玉利 敏 郎

大分合同新聞社
執行役員広告局長
入不二 茂 隆

宮崎日日新聞社
広告局長
荒 巻 恭 夫

南日本新聞社
広告局長
前 田 義 人

沖縄タイムス社
広告局長
外 間 尹 敏

琉球新報社
広告局長
芦 原 栄 喜

以上64社64人
(2009年7月17日現在、会員名簿順、
敬称略)

賞の構成

構成

新聞広告賞は、広告主企画部門と新聞社企画部門の2部門で構成され、両部門とも入選作はそれぞれ5点とされている。受賞者には賞状および記念像またはトロフィーが贈られる。

さらにこの賞には、広告主企画部門においては若干数の「優秀賞」が、また新聞社企画部門においても、若干数の「奨励賞」が、それぞれ与えられることになっている。

この賞は、広告主企画部門では当該広告活動の企画立案にあたった広告主に、新聞社企画部門では日本新聞協会会員新聞社の当該広告活動企画部門に、それぞれ贈られる。

賞

●新聞広告賞〈広告主企画部門〉

賞状とブロンズ記念像

●新聞広告賞〈新聞社企画部門〉

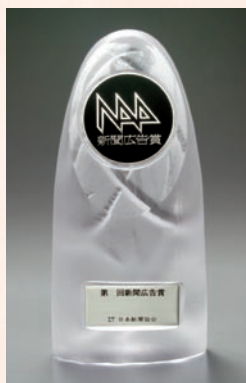
賞状と純銀メダル付きクリスタルトロフィー（丸型）

●新聞広告賞優秀賞〈広告主企画部門〉

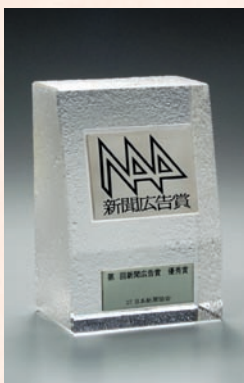
賞状と純銀メダル付きクリスタルトロフィー（角型）

●新聞広告賞奨励賞〈新聞社企画部門〉

賞額



クリスタルトロフィー
（丸型）



クリスタルトロフィー
（角型）



ブロンズ記念像

新聞広告賞ブロンズ記念像

日本新聞協会は、新聞広告賞〈広告主企画部門〉入選者の栄誉をたたえて故・高田博厚氏制作のブロンズ記念像を贈ります。この記念像「STATUETTE」は、新聞広告賞のために特に高田氏に制作をお願いしたもので、豊饒・気品・健康・温かさ、といったイメージを表現しています。

「新聞広告賞」に関する規定

第1条 (目的と名称)

日本新聞協会は、新しい新聞広告の可能性を開拓した広告活動を顕彰し、新聞と広告との発展に資することを目的に「新聞広告賞」を設け、毎年新聞週間に際し贈賞する。

第2条 (表彰の事由・贈賞の対象)

- (1) 新聞広告の新しい利用法や表現領域の開拓に成功した活動、新聞広告により広告目的に即して大きな成果をあげた活動、その他新聞媒体と新聞広告の特性・機能を活用あるいは開発し前条の目的に照らして貢献するところが大きいと認められる活動を表彰する。
- (2) 本賞は、協会会員紙に掲載され、前項に該当すると認められた広告作品に贈られる。

第3条 (賞の構成)

- (1) 本賞は、広告主企画と新聞社企画との二つの部門によって構成する。
- (2) 選考委員会は、前項両部門について、本賞とは別に広告主企画部門においては優秀賞を、新聞社企画部門においては奨励賞を贈ることができる。

第4条 (受賞者)

本賞の受賞者は、広告主企画部門については当該活動の企画立案にあたった広告主企業代表者とし、新聞社企画部門については協会会員新聞社の当該活動企画部門とする。

第5条 (表彰)

- (1) 両部門とも入選作はそれぞれ5作品とし、賞状ならびに記念像または賞牌^{はい}を贈る。
- (2) 優秀賞に対しては賞状と賞牌を贈る。
- (3) 奨励賞に対しては賞状を贈る。

第6条 (応募・推薦)

- (1) 本賞は、原則として、本賞の目的に合致した作品の企画・制作、掲載をした関係者の応募により選考を行う。ただし、広告関係の第三者による推薦を妨げない。
- (2) 応募、推薦の手続きは別に定める。

第7条 (選考)

本賞の選考はつぎの方法による。

- (1) 会長の任命する委員をもって新聞広告賞選考委員会を組織し、広告賞贈賞に関する事項を審議決定する。
- (2) 選考委員会は、応募・推薦された候補について審議し受賞者を決定、その旨を理事会に上申し承認を得る。
- (3) 選考委員会は、必要に応じ外部の関係者から意見を求めることができる。
- (4) 両部門の特性を考慮し、選考委員会の運営細則を別に定める。
- (5) 選考結果は、「新聞協会報」および「新聞広告報」紙上と当協会ウェブサイトで発表する。

第8条 (選考の対象期間)

- (1) 本賞選考の対象となる作品は、前年6月1日から本年5月末日までの1年間協会会員各紙に掲載されたものとする。
- (2) 上記期間を越える長期の活動については顕彰に値すると選考委員会が判断した場合は、始期は問わずこれを対象に含める。

第9条 (提出資料および締め切り期日)

応募者ならびに推薦者は、当該作品に所定の関係資料をそえて毎年6月初旬までに選考委員会に提出するものとする。

第10条 (その他)

本賞の選考および運用の細目については、選考委員会の決定により別に実施細目を設けることができる。

2009年度「新聞広告の日」共同キャンペーンテーマ
「心を動かす確かな手応え——新聞広告」

2009年10月20日発行

社団法人 日本新聞協会

〒100-8543

東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル7階

電話 03 (3591) 4407

<http://www.pressnet.or.jp>

定価 1,000円 (税込)



NEWSPAPER
ADVERTISING
PRIZE 2009